

美し国 三重 桑名

2018/11/10(土)-11(日)

# 六華苑 秋の舞楽会

桑名ほんぱく(本物力博覧会)

入場無料  
(入苑料 460円必要)

午前の部 10:00~  
午後の部 13:00~

さほうひらまい まんじゅうらく  
左方平舞 : 萬秋楽

てん えん ち ほう  
「天は円、地は方」の舞台

六華苑 (旧 諸戸清六 邸) / 鹿鳴館で有名なジョサイア・コンドル設計による4層塔の洋館と  
材木商の諸戸家が贅を極めた和館に池泉回遊式庭園などがある近代文化遺産 (国重要文化財・名勝)

アクセス: 三重県 桑名市 桑名 663 番の 5 (TEL0594-24-4466)

➡ <鉄道> 近鉄・JR桑名 (名古屋⇒20分) から徒歩 20分

➡ <自動車> 東名阪桑名東 又は 伊勢湾岸桑名ICから 15分



うほうひらまい しきて  
右方平舞 : 敷手



日本の心を音楽と舞で伝える

## 雅楽

今回のみどころ  
明治維新以降 150年間で  
全国初となる 幻の大曲  
「蘇合香」一具 (午後) と  
大曲「退走禿」 (午前)

問合せ: 田中松緑  
TEL0594-48-3484  
<http://www.tadogagaku.com/>

諸戸徳成邸の一部を活用した  
「集楽館」(監修: 多度製材/  
施工: HIRO 建築) が多度に  
完成します。

さほうはしりまい そまくしゅ  
左方走舞 : 蘇真者

芸術文化振興基金 助成実績事業  
企業メセナ協議会 助成認定事業

主催: 多度雅楽会  
後援: 桑名市  
共催: 桑名市文化・スポーツ振興公社



# 舞楽について

雅楽の舞は、古代歌謡を起源とする「国風歌舞」（くにぶりのうたまい）と、外来舞を起源とする「舞楽」（ぶがく）があります。いずれも、平安時代に国風文化の影響を受けて、外来楽舞を受容しつつ日本人の趣向に再構成され、日本の伝統文化として継承されてきました。

舞楽は、中国インドシナなど南方系伝来の「左方舞」（さほうのまい）と、朝鮮半島など北方系伝来の「右方舞」（うほうのまい）に大きく分類され、「舞人」（まいびと）は「管方」（かंकかた）演奏に合わせて舞います。

## < 演奏 >

演奏方法も、左方舞は「唐楽」（とうがく）と右方舞は高麗楽（こまがく）に原則として分類され、それぞれ楽器構成が異なり、舞も、唐楽は管楽器の旋律に、高麗楽は打楽器の拍子に合わせて舞います。

- 唐 楽 … 管楽器（笙（しょう）、篳篥（ひちりき）、龍笛（りゅうてき））と打楽器（鞀鼓（かつこ）、太鼓、鉦鼓（しょうこ））
- 高麗楽 … 管楽器（篳篥（ひちりき）、高麗笛（こまぶえ））と打楽器（三鼓（さんのつづみ）、太鼓、鉦鼓（しょうこ））

## < 種類 >

舞の種類は、左方舞・右方舞ともに、平舞（ひらまい）、童舞（わらべまい）、武舞（ぶのまい）、走舞（はしりまい）などに分類されます。

- 平 舞（ひらまい） … 「萬歳楽（まんざいらく）」「延喜楽（えんぎらく）」など、文人姿の舞人がゆったりかつ華麗に舞います。
- 童 舞（わらべまい） … 「迦陵頻（かりょうびん）」「胡蝶（こちょう）」など、青年前の男子や女子の舞人が可愛らしく舞います。
- 武 舞（ぶのまい） … 「太平楽（たいへいらく）」「陪臚（ばいろ）」など、武人姿の舞人が鉾（ほこ）を持って勇壮に舞います。
- 走 舞（はしりまい） … 「陵王（りょうおう）」「納曾利（なそり）」など、面を付けた舞人が桴（ばち）を持って闊達に舞います。

## < 装束 >

舞楽装束は、四季に恵まれた我が国ならではの自然の色彩と感性で、花や動物などを、上着の袍（ほう）や下襲（したがさね）などに刺繍で意匠した芸術作品です。唐楽は赤紫色に金細工、高麗楽は青黄色に銀細工を装飾の基調としています。

平舞では、赤と緑の豪華絢爛な唐様「襲装束」（かさねしょうぞく）と、紫と青の王朝様式の「蛸絵装束」（ばんえしょうぞく）を用います。そのほか、「別様装束」（べつようしょうぞく）は、舞楽ごとに面や装束が異なります。走舞では、遊牧民族の毛皮を現した毛ペリの桶襦装束（りょうとうしょうぞく）を用います。

## < 舞台 >

舞台は、宇宙を表す「天は円に地は方」と、太陽と月を表す左右の大大鼓で形成され、舞座は、三間四方の平台に緑色牡丹文様の地敷（じふ）を敷いて、周囲を四間四方の擬宝珠（ぎぼうしゅ）柱と高欄（こうらん）で囲みます。舞人は、左方舞は舞台の左から、右方舞は舞台の右から、それぞれ登台して舞います。管方は、楽所幕（がくそまく）を背景に、大大鼓（左方に日輪を表す金に昇龍、右方に月輪を表す銀に鳳凰）などの装飾された打楽器と公達（きんだち）姿の楽人を配置します。

## たど 多度雅楽会

上げ馬神事で有名な多度大社の歴史は古く、その雅楽は奈良時代に記録があり、江戸時代に雅楽を愛好した松平定信の後裔が桑名藩にて継承しました。多度雅楽会は、その由来ある三重県桑名市と東京都江東区を拠点として、雅楽を普及継承する団体です。「文化芸術による創造のまち」文化庁支援事業（平成 19-20 年度）の実績をもとに本物の雅楽を伝える活動と公演を続けています。桑名市文化協会の活動ほか、全国最大規模の春秋定期公演（六華苑舞楽会）、東京の新春公演、富岡八幡宮例大祭奉納など、地域の人々との交流を大切にしており、近年、伊勢神宮のある三重県を PR する活動にも協賛しています。詳しくは、サイト（<http://www.tadogagaku.com/>）をご覧ください。

会員募集中 初心者も経験者も、出演希望の方なら歓迎です。お気軽にご連絡ください。

稽古場所：六華苑・立坂神社等（週末、桑名市）又は 東京 富岡八幡宮（火・木曜、江東区）



< 主演と解説 >

たなか しょうろく 田中 松 緑



多度大社の地元生まれ育ち、家系の流れで中学のころから雅楽を奏で舞い続けている。「多度雅楽会」の代表として子供たちにも雅楽を伝え続けながら芸術性を追究しており、平成 25 年には文化庁の地域伝統文化功労者に選ばれた。ユネスコ文化遺産となった石取祭で有名な桑名宗社（春日神社）で中世から伝わる例大祭の神事（桑名市無形文化財）を主導する等、地域の祭礼に奉仕するほか、芸術家として、毎年春秋に全国でも上演が稀な名曲を多数公演している。

